

副学長

三好 萬佐行 教授

—副学長3人体制となる—

(平成9年12月1日付)

平成九年一〇月一日付で前教授奥村先生のおと第一内科に赴任してまいりました。昭和四十九年に九州大学医学部を卒業後、九大で内科臨床研修を一年した後、米国にて内科インターン、レジデントを三年、内科腫瘍学のフェローシップを二年した後、昭和五十五年、帰国しました。以後、県立宮崎病院(一時期宮崎医科大学助手)で一般内科、臨床腫瘍・血液学を中心に臨床研究を行ってまいりました。特に、成人T細胞白血病の病態と治療、抗癌剤の開発と癌細胞の確立、造血幹細胞移植に力を入れてまいりました。また、宮崎の中核



内科学第一教授

田村 和夫

診療面では、骨髄移植の開始、他科と共同で癌患者の集学的治療、エイズ診療体制の確立、研究面では癌細胞の薬剤感受性テスト、耐性機構の解明、薬物動態の臨床への応用、造血幹細胞の ex vivo expansion 等を予定しています。前教授奥村先生が作られました研究、診療体系を引き継ぐと共に新しい風を吹き込みたいと思っています。私自身、学生や研修医のつもりで毎日過ごしていますが、未熟な点、行き過ぎたところが多々あると存じますが、ご指導、ご鞭撻よろしくお願い致します。

昭和五十九年四月からは佐賀医科大学産婦人科に入局させていただきます。杉森教授の下で七年間臨床に研究にまた遊びに楽しく過ごすごができました。

昭和五十九年四月からは佐賀医科大学産婦人科に入局させていただきます。杉森教授の下で七年間臨床に研究にまた遊びに楽しく過ごすごができました。

昭和五十九年四月からは佐賀医科大学産婦人科に入局させていただきます。杉森教授の下で七年間臨床に研究にまた遊びに楽しく過ごすごができました。

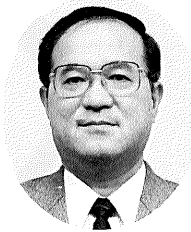
昭和五十九年四月からは佐賀医科大学産婦人科に入局させていただきます。杉森教授の下で七年間臨床に研究にまた遊びに楽しく過ごすごができました。

昭和五十九年四月からは佐賀医科大学産婦人科に入局させていただきます。杉森教授の下で七年間臨床に研究にまた遊びに楽しく過ごすごができました。

昭和五十九年四月からは佐賀医科大学産婦人科に入局させていただきます。杉森教授の下で七年間臨床に研究にまた遊びに楽しく過ごすごができました。

医学部長(福岡大学医学会会長)

池原 征夫 教授



平成9年10月1日付で本学へ赴任、または昇格された方に自己紹介をしていただきました。

新 風

病院として学生(宮崎医科大学)、研修医、若い医員(宮崎医科大学、九大、鹿大)の卒前、卒後教育に携わってまいりました。そこで強く感じたことは、病歴、身体所見の取り方、鑑別診断、治療が極めて貧弱であるということです。今回、縁があつて内科学教室にまいりましたので、卒前、卒後教育を充実させ、頭の上から足の先まで診ることのできる優秀な臨床内科医を育てるつもりです。

現在毎日朝八時、夕方四時五時にカンファランス、廻診をし、時間があればミニレクチャー、詳細なディスカッションをしています。この体制になって数か月にはなりましたが、研修医の実力が急速に伸びており、また恐る恐る患者に接していた学生が積極的にやってきたことを感じます。これから数年間のこの学生、研修医たちと尿・便・血液にまみれながら一緒に過ごし、かれらが指導的な立場になれるまで頑張っていく予定です。

診療面では、骨髄移植の開始、他科と共同で癌患者の集学的治療、エイズ診療体制の確立、研究面では癌細胞の薬剤感受性テスト、耐性機構の解明、薬物動態の臨床への応用、造血幹細胞の ex vivo expansion 等を予定しています。前教授奥村先生が作られました研究、診療体系を引き継ぐと共に新しい風を吹き込みたいと思っています。私自身、学生や研修医のつもりで毎日過ごしていますが、未熟な点、行き過ぎたところが多々あると存じますが、ご指導、ご鞭撻よろしくお願い致します。

昭和五十九年四月からは佐賀医科大学産婦人科に入局させていただきます。杉森教授の下で七年間臨床に研究にまた遊びに楽しく過ごすごができました。

昭和五十九年四月からは佐賀医科大学産婦人科に入局させていただきます。杉森教授の下で七年間臨床に研究にまた遊びに楽しく過ごすごができました。

昭和五十九年四月からは佐賀医科大学産婦人科に入局させていただきます。杉森教授の下で七年間臨床に研究にまた遊びに楽しく過ごすごができました。

昭和五十九年四月からは佐賀医科大学産婦人科に入局させていただきます。杉森教授の下で七年間臨床に研究にまた遊びに楽しく過ごすごができました。

産科婦人科学助教授

蜂須賀 徹



放射線科学助教授

宇都宮 英綱



教室紹介

病理学第一

当教室は開学以来菊池昌弘教授が主宰され、現在では岩崎宏教授と二人三脚に運営されております。病理学教室は基礎の教室でありながら病院内に病理部があり、術中病理を含めた病理診断業務を行っております。ある面では臨床の教室でもあります。

スタッフは大島孝一助教授、鈴宮淳司講師、大慈弥悠子兼任講師、原田誠司助手、中山吉福助手、梅津朋子教育技術職員です。教育面では病理学第二教室と協力をしてM3の講義、実習、M5のBSL、M6のsupor BSLを担当しております。M3の学生には臨床と基礎の両方を学んでいただくことを目指しています。

研究面では3つの部門に分かれていますが臨床病理学的な問題を解決しようとする基本的姿勢をもって研究を進めております。菊池教授、大島助教授を中心とし、鈴宮、大学院生の田中、神田、研究生の熊川、島崎、加藤により悪性リンパ腫の研究が形態的のみならず分子生物学的手法を用いて進められ、悪性リンパ腫研究の一つの中心地となっております。また菊池教授の名前のついているリンパ節炎である菊池病の病因に対する研究も進められています。

岩崎教授、大慈弥を中心とし大学院生の古賀、山本が軟部腫瘍の染色体解析を新しい解析方法であるFISH法、CGH法を用いて行っています。軟部腫瘍の診断に早くから形態診断だけでなく、染色体解析をとおりいく多くの成果をあげており国内外から高い評価を受けています。また大学院



解剖学第二講師

山下 信哉

昭和五十九年に福岡大学医学部を卒業し、整形外科教室に入局しました。高岸教授のご指導で慢性リウマチの患者

昭和五十九年に福岡大学医学部を卒業し、整形外科教室に入局しました。高岸教授のご指導で慢性リウマチの患者

昭和五十九年に福岡大学医学部を卒業し、整形外科教室に入局しました。高岸教授のご指導で慢性リウマチの患者

昭和五十九年に福岡大学医学部を卒業し、整形外科教室に入局しました。高岸教授のご指導で慢性リウマチの患者

福岡大学医学紀要 第24巻

優秀論文賞決定!

下記の方々が、福岡大学医学紀要優秀論文賞を受賞されました。(教室便り「受賞」に再掲)

道永 成

前立腺癌のフローサイメトリーによる核DNA量の検討
—とくに内分泌療法による変化とその多様性について—

由利 佳代

在宅痴呆性老人のケア・ニーズに関する研究
第一報 老人性痴呆の有病率の推定

須堯 慎也

「Changes in the Usage of T-cell Receptor Variable β Genes in Patients with Chronic Hepatitis B」

創立 25 周年記念式典報告

記念式典

祝賀会

県知事および市長のご祝辞は

その後、高木忠博医学部同

(文責 金岡 毅)

し、三好萬佐行

『親心・子』

第二十二

ある日、病棟のボックスに
見慣れぬ茶封筒が入っていた。
何だろうと思ひ読んで見た
ると、「親心・子心コーナー」
の原稿依頼」と書いてある。
私は九月に第一子が生まれた
ばかりなので、親になった感
想でも書くのかな? と思ひ、
前号・前々号の記事を読んで
びつくりした。そんなお気楽
な内容でなく、医学を指導す
る立場 指導される立場での
考えというようなものである
と納得した。しかも、周りに
は偉い先生方の記事が掲載さ
れており、「こりやまいった

第二内科 研修医

循環器の研修医にはQ一
Q二なるものがあり、急患が
入った時すぐに駆けつけその
まま主治医になるという制度
である。その日の朝九時から
翌朝九時までの一人目はQ一
二人目はQ二、それ以上入っ
た時は翌日のQ一というよう
にスライドするシステムで、

のように寝続けた。
 昼過ぎから久留米へ行き、
 用事を済ませ帰ったのが夕
 方。食事を終え、娘を風呂に
 入れ、寝顔を見ていたら「原
 稿は明日書こう」という気にな
 る。そして、十二日（月）
 の朝九時頃、「今日のQ一は」
 下地先生ですよね。今から急

外科学第一

動も行える特色を兼ね備えております。その他、病理学第一教室の中山吉福助手らをはじめとして生化学第一教室、生化学第二教室、薬理学教室では一〇人の大学院生が研究指導を受けさせていただいております。院外では、秋山太先生が癌研究会附属病院病理部門において乳癌の臨床病理学的研究で活躍中です。

年末が割と慌ただしく過ぎた。一月一日のＱ一になって、いた私は、十二月三十一日、久留米で紅白を見ながら「明日朝福岡に戻って、一日急患がなければ、二日・三日は久々に、ゆつくり子どもと過ごせるな。」とぼんやりと考え、年を越した頃床に就いた。朝六時頃、けたたましくポケベルの音が鳴り響き、「今頃何かいな?」と病棟へＴＥＬす

現在の私は、医師としても親としてもほんの駆け出しで何か言えるような立場ではない。しかし、医師という仕事に対して、子どもの頃から憧れを持っていたし、仕事に誇りを持てるよう頑張りたいと考えている。また、りっぱな親にはなれないと思っているが、愛情だけは精一杯子どもに与えたいと思っている。以前から「自分の子に限って」

海外留学は現在永井哲が UCLA で研究中で、四月からは笠普一朗助手の Harvard 大学での研究が開始されます。医局員の多くは、救命救急センター、白十字病院、糸島医師会病院、博愛会病院、中間市立

ると「あー先生、急患です」と優しい看護婦さんの声がした。何のことか分からず、一瞬ポカーンとしていたが、説明によるとどうやら午前三時半頃一人急患がQ一に入り、五時半頃入った二人目は、Q二がCCUに患者さんを持

という馬鹿な籍をテレビ等で散々みてきたが、自分が親になった今、そんな馬鹿な親になりたいとも思っている。これが医師として親としての私の初心である。

只今、午前二時五八分。さあ、今からカルテを書かなく

お 知 ら せ

「福岡大学医学会第38回例会」を開催します。

みなさま多数のご参加をお待ちしております。

日 時 平成10年 2月25日(火) 17時より

場 所 福岡大学医学部臨床大講堂

「福岡大学医学会ニュース」のホームページ
が開設されました。

福岡大学医学部公式ホームページ

(<http://133.100.158.12>)

からリンクできます。

海 外 便 り

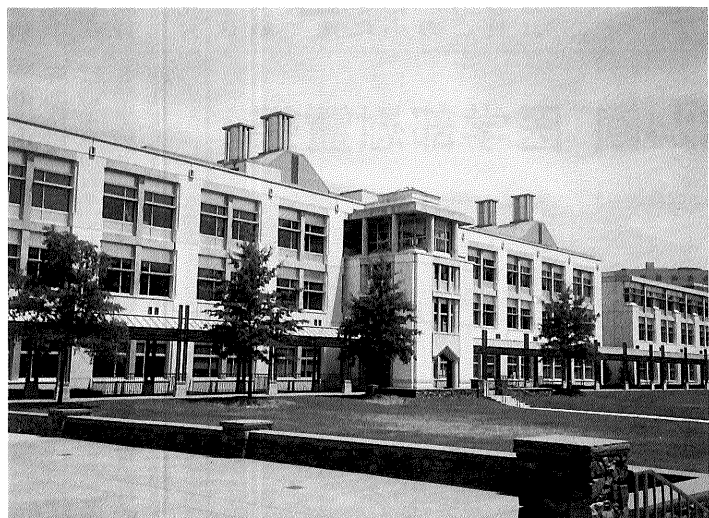
デューク大学での在外研究

生理学第一 井上 真 澄

平成九年五月から一年間の予定でデューク大学の薬理・癌生物学部門で客員準教授として研究をしております。以前、福岡大学総合研究所発行の「リサーチ」第5号に寄稿した折り、こちらの医学教育や研究環境について書きましたので、今回は私自身が従事している研究について書くことに致します。

私は副腎随質細胞のカテコルアミン分泌に関するシグナル伝達機構をおもに研究しておりますが、この伝達機構に脱燐酸化酵素が中心的役割を担っていることがわかってきました。そこで、この在外研究の機会に脱燐酸化酵素の生化学や分子生物学をかにしてみることに致しました。脱燐酸化を扱っている生化学

者の主な関心は細胞分化や増殖に関する細胞質や核の調節系で、形質膜に存在する脱燐酸化酵素活性の調節蛋白についてはほとんど知られていませんでした。一方、生理学をやっている者は形質膜におけるシグナル伝達が主な関心ごとで、私自身の研究から形質膜にも脱燐酸化酵素の調節蛋白が存在するのではないかと考えていました。そこで、こちらの研究室のセノリッカード教授や大学の学生に教えてもらいながら、形質膜を単離して調節蛋白の存在を調べております。今までのところ、脱燐酸化酵素に結合する蛋白があることは分かりましたので、その一次構造や遺伝子を決定して、この蛋白が調節蛋白なのかを



写真は、薬理学・癌研究部門が入っている建物。薬理学・癌研究部門は、20以上の研究室により成り立ち、この建物のほとんどを占めている。この建物の横にカフェテリアがあり、5ドルぐらいでいろいろなものが食べられる。

明らかにしていきたいと考えています。ラジオアイソトープは大学院以来約二〇年ぶりに扱ったぐらいで生化学や分子生物学は全く門外漢ですので、毎日が失敗の連続です。あと半年で目的が達成されるか心配なのですが、この在外研究が今後の研究のきっかけになればと思っています。

教 室 便 り

受 賞

鈴宮 淳司・原岡 誠治・神田 基信〔病理学第一〕
福岡県対ガン協会研究助成金
研究業績「悪性リンパ腫、特にびまん性大細胞リンパ腫の分類、細胞起源ならびに臨床像との関連」

金 哲浩〔内科学第一〕
日本消化器内視鏡学会奨励賞
Risk factors for hemorrhage from gastric fundal varices.

朔 啓二郎〔内科学第二〕
(米国内科専門医学会正会員) 授与
Fellow of American College of Physicians (FACP)

田中伸之介〔外科学第一〕
日本消化器外科学会国際交流奨励賞
Proliferating cell nuclear antigen および Ki-67標識率からみた胃内分泌細胞癌の生物学的悪性度評価

高田 徹〔臨床検査医学〕
The Young Scientist Award
Cag A, Vac A and the vac A genotypes in the isolates from patients with either peptic ulcers or nonulcer dyspepsia.

長谷川修三〔筑紫病院外科・病理〕
平成9年度日本大腸肛門病学会賞
直腸カルチノイドの臨床病理学的研究
一とくに免疫組織化学的悪性度指標の検討一

道永 成〔泌尿器科〕
福岡大学医学紀要優秀論文賞

由利 佳代〔公衆衛生学〕
福岡大学医学紀要優秀論文賞

須堯 慎也〔内科学第一〕
福岡大学医学紀要優秀論文賞

学位取得

次の方は、平成9年11月13日付で、福岡大学より医学博士を授与された。

野中由紀子〔皮膚科学〕
小田 秀也〔筑紫病院・消化器科〕
八尾 建史〔筑紫病院・消化器科〕
文 富強〔内科学第二〕
金 哲浩〔内科学第一〕
刘 瑞〔内科学第二〕
森永 真利〔法医学〕

海外留学・出張

①留学または出張先国名 ②期間 ③目的
大島 一寛〔泌尿器科学〕
①アメリカ・イギリス ②'97.8.16~'97.10.30
③福岡大学短期在外研究員として学術の研究および交流

海外からの留学(3か月間以上)

①出身地での所属(職名) ②期間
Pranay Deep Khare〔生化学第一〕
①キングジョージ医科大学(研究員)
②'97.10.1~'98.9.30
廖 少希(Liao Shaoxi)〔生化学第一〕
①華西医科大学(講師)
②'97.10.1~'98.9.30
張 安民(Zhang Anmin)〔病理学第一〕
①上海医科大学 病理科 助理研究員
②'97.10.1~'98.9.30
Yun-Tae Lee〔整形外科〕
①Department of Orthopaedic Surgery, Severance Hospital, Korea (Research Instructor)
②'97.6.1~'97.10.31
Chaw-Ruey Lyu〔整形外科〕
①Department of Orthopaedic Surgery, Chiayi Christian Hospital, Taiwan (Chief)
②'97.8.1~'97.9.30

新刊紹介

①書名 ②発行所
三好萬佐行〔解剖学第二〕
①中枢神経解剖学第7版(編著者)
②理科社

坂田 則行〔病理学第二〕
①ADVANCES OF DIABETES MELLITUS IN EAST ASIA (分担)
②EXCERPTA MEDICA
岡田 光男〔内科学第一〕
①十二指腸潰瘍 今日の診断指針第4版(分担)
②医学書院
浦田 秀則、出石 宗仁、荒川規矩男〔内科学第二〕
①心不全(分担) ②医薬ジャーナル社
吉田 稔〔内科学第二〕
①新臨床内科学第7版(分担) ②医学書院
佐々木 淳〔内科学第二〕
①カレント内科 動脈硬化(分担)
「高脂血症治療による予防医学・治療学」
②金原出版株式会社
西園 昌久、福井 敏、佐々木裕光〔精神医学〕
①精神療法マニュアル(分担) ②朝倉書店
白日 高歩〔外科学第二〕
①Epithelial tumors of the thymus (分担)
②Plenun press
岡 一成、朝長 正道〔脳神経外科学〕
①図説 脳神経外科 New Approach 4 (分担)
②メジカルビュー社
田代 忠〔心臓血管外科学〕
①冠動脈外科の進歩(分担)
②日本アクセル・シュプリンガー出版
緑川 孝二〔整形外科〕
①カラーアトラス肩関節鏡(分担)
②金原出版
井上 敏生〔整形外科〕
①別冊整形外科32 小児の下肢疾患(分担)
②南江堂
内藤 正俊〔整形外科〕
①整形外科治療のコツと落とし穴(分担)
②中山書店
加藤 整〔眼科学〕
①眼科診療プラクティス 眼科診療ガイド vol.32 ②文光堂
井手口 裕〔臨床検査医学〕
①Clinical Studies in Medical Biochemistry second edition (分担)
②Oxford university press
平塚 義治〔筑紫病院泌尿器科〕
①新泌尿器科学(分担) ②南山堂